第４分科会記録

１　分科会の主題　「育ちをはぐくむ乳幼児期からの支援のあり方」

提案者	スクラムネット療育コーディネーター	田中　　理恵
助言者	理学療法士	窪田　　洋美
助言者	公認心理師	川嶋　真由子
司会者	美麻小中学校	佐久間　昌彦
記録者	平公民館主事	縣　　直哉
世話係	大町市民生児童委員協議会	伊東　　正明

２　提案要旨

こどもは大きな可能性を持ったかけがえのない存在であり、やがて社会を支える未来の力になります。こどもたちを取り巻く環境の変化の中で、育ちの出発点である乳幼児期に、こどもたちとどう関わり、育ちを見守ることで、可能性を伸ばしていけるか共に考え合います。

３　協議の内容

スクラムネット療育コーディネーター　田中　理恵

（１）スクラムネットとは

スクラムネットとは、大北圏域の障がいを持った住民が安心して生活できるような総合窓口であり、大町市社会福祉協議会の２階に事務所がある。スクラムネットには、精神、身体、知的障がい者の生活を支援するコーディネーター、福祉サービスを利用する人の支援をする相談支援専門員、発達障がい者を支援する発達障がい専門員、０～１８歳までの相談を受け持つ療育コーディネーターが常勤している。本日の分科会では、子どものことを中心に対応しているスタッフが担当しており、長野県から委託されている障がい児等療育支援事業である。障がいや発達の気になる子どもが地域の中で健やかに過ごせるように支援していて、その中の事業の一つとして、市内小学校や保育園、幼稚園、安曇養護学校など未満児の巡回相談を定期的に行い、相談を受けている。

（２）近年の大町市のこどもの状況

最近の大町市内の保育園・幼稚園の入園状況を調べたところ、幼児の人数が平成 27 年の 495 人から、令和５年では 405 人と 100 人近く減っていた。しかし、未満時の数では平成 27 年に 138 人から令和５年では 144 人と横ばいであった。そこから考えると未満児のうちから入園する子どもの数が増えていると分かった。０から２歳は心も体も目覚ましい発達が見られる時期であることから、スクラムネットでは、令和４年から未満児の巡回相談を理学療法士、公認心理士と市の保健師が一緒に行うことになった。

（３）グループ協議

子どもたちは、家庭の次に長い時間を園で過ごす。未満児から入園する場合、家庭ではなく、

園で初めて出来たことが多くあると思われる。そのようなことを、園と家庭で情報共有して一緒に支えて欲しいと考えている。子どもの成長は著しいので、園と家庭で一貫した対応が必要となることがある。その中で、それぞれの立場で課題に思っていることを話し合ってもらうことを提案させてもらいたい。

また、子どもは園だけではなく、地域でも生活している。民生児童委員や地域の人の訪問による見守り等もあるが、近年は個人情報が厳しくなっていることもあり、情報共有が難しくなっている世の中だが、子どもは地域の中で見守りをしてもらいたい存在である。地域社会で課題になっている点についても話し合ってもらいたい。

以上より、提案①「課題に感じていること」を話し合ってもらい、その結果を踏まえながら、提案②では「こんなシステム・仕組みがあったらいいな、助かるなと思うこと」を話し合ってもらいたい。

提案①「課題に感じていること」

〇グループＡであがった課題

・成長や喜び等をまず伝えたいのに、ケガをした等のネガティブな情報を伝えることが先行してしまう。担任の先生が伝えることが出来ない情報があることもある。
・情報共有の方法を検討した方が良い。ノートは有用だが口頭で伝えたい。
・参観日や行事の時に、保護者と先生、保護者同士が話せる時間を多くもらいたい。
・子どもだけでなく、親もスマホを見る時間が多い。親と子が触れ合う時間が減っている。

〇グループＢであがった課題

・子どもが減っており、あいさつ当番をしても人が来ない。（必要があるのか）
・幼稚園と保育園での情報の差がある。幼稚園の方がタイムリーで、保育園では懇談会で初めて聞くことがある。
・地区の子ども会に新入生の情報がないため、地区との関わりが持てない。学校に問い合わせても個人情報のため、中々教えてくれない。
・見守って欲しい子どもがいても学校から教えてもらえない。ある程度教えてもらえると嬉しい。

〇グループＣであがった課題

・保育園では中々保護者と話す時間が少ない。
・個人情報の共有、プライベート等の信頼関係の土台作りが課題
・保育や発達の情報は自分たちで調べなければ分からない環境だと感じる。

〇グループＤであがった課題

・地域の繋がりの低下により、子どもの情報共有低下で子どものことが分からない。注意したことに逆に文句を言われることを恐れて二の足を踏む。
・かつては子どもの問題は非行が大きかったが、今は発達の問題や不登校、いじめ等、見えにくくなっている。
・園と家庭の温度差がある。（例：園でトイレトレーニングをしても、自宅ではおむつのまま）
・家で過ごす時間が少なく、子どもの成長を見られていない。
・自分の子を怒れない親、他者から怒られると気に入らない親がいる。

〇グループＥであがった課題

・園（学校）と家庭が同じ方向に向くことが難しい。
・子どもの数の減少、自治会の未加入等、横や縦の繋がりの希薄さが見られる。
・外で遊ぶ子が少なく、ゲームをする時間が多い。犯罪の心配等がある。地区と繋がらない

（４）助言者より

〇理学療法士　窪田　洋美

自分は運動発達分野が専門だが、運動のみだけではなく、社会性や理解することが必要だと捉えている。運動だけを見るのではなく、発達全体を見てアドバイスをしている。例えば、０歳児の子どもにも社会性がある。誕生してから１年後には歩行を始め、目に見えて出来ていくことが増える。泣いたり笑ったり声を出すことで意思表示をし、大人からは喜ばれ、人と関わっていくにつれて人を見極めたり人見知りをする。周囲の大人のポイントとしては、子どもと共感し、喜怒哀楽を表情やトーン等で判断し、子どもの考えを理解する。子どもを褒める時は、目を見て高いトーンで大げさに伝えることが大切。周りがほめることで子どもは期待される、共感する、正しいことや間違っていることなどの生涯使っていく大切な能力を培える。一番身近な大人として家庭内で子を育むことが大切。最近は核家族化が進んでおり、親子のみの関わりが増えている。地域ではどんなイベントや行事があり、情報交換をするコミュニティがあるかを知ってもらいたい。子どもの社会の１つとして保育園や幼稚園が挙げられるが、最近は１歳で保育園に入る子も増えている。母も仕事をするので、共感力が育っていない子が増えている。子育てには家庭や園、地域など大人の力が不可欠。どのような工夫をして赤ちゃんと関わるのかが大切だと思う。

〇公認心理士　川嶋　真由子

スクラムの巡回相談で色々な年齢の子どもを見ているが、最近は０～２歳で入園する子どもが増えている。親からの相談では、癇癪や人を叩くなどの相談が多い。子どもの様子を見てどんな子なのかと観察をしている。子によって理由はあるが、まだコミュニケーション能力が低いことから、遊んで欲しい、構って欲しい、叩くと反応をするので面白がって行うなどの理由が考えられる。子どもの中には自宅と園で様子が違うケースも見られる。一般的にはイヤイヤ期と言われており、親の言うことに反発する言動が増える。親は子に、自分だけが良いのではなく、配慮やルールを知って守ることを学ばせる必要がある。一昔前はきつく怒る人も多い印象であったが、最近は子どもの意思を尊重し過ぎるあまり大人が折れてしまい、子どもの立場が上になって大人が悩むというケースが増えている。また、最近はスマホやタブレットの影響で際限なく動画を見る子も増えており、外へ出て実体験をすることが不足していると感じる。

大人のスタンスとしては、「怒らないけど譲らない」という対応をすることが大切。子どもの要求を全て通さないが、意見は尊重するということを繰り返せば、子どもは感情をコントロール出来るようになっていく。大人が子どもの観察を良くすることで、完璧ではなくても、子どもは感情や言葉と行動を表現出来るようになっていく。共感が出来ると相手の気持ちを理解でき、我慢することを覚えていくことでイヤイヤ期を乗り越えられる。大人にも根気やエネルギーが必要。親も一人一人性格が違うため、子どもに楽なことばかりではないことを理解させ、親子で成長することが大切である。

提案②「こんなシステム・仕組みがあったらいいな、助かるなと思うこと」

先ほどの助言者からの話を聞いた上で話し合ってもらいたい。

〇グループＡの内容

・これからの時代は、小中学校から男女関係なく教育する必要があり、専門的な立場の人に教えられたら良い。

・父親に向けて「家庭ではスマホを止めて子育てに協力する」と指導する。

・イベント等で赤ちゃんを連れてくる家族に対して暖かく受け止める（主催者側が環境を整えておく）

〇グループＢの内容

・幼稚園が０～２歳児に対しても受け入れられる体制があれば良いと思う。

・保護者と園の連携を強くしてほしい。

・子どもを一緒に連れて来ても良いというイベントがたくさん増えて欲しい。

・母が参加しやすいように、作り置きの料理を学べる教室を開いて欲しい。

〇グループＣの内容

・保護者が療育の情報を冊子等でまとめ、色々なところに届けて欲しい。

・ネットを活用し、24 時間連絡できる情報提供システムを作って欲しい。

〇グループＤの内容

・定期的に親が情報共有や相談が出来る場があれば良い。

・父母が育休時等、経済的支援を拡充し、家庭で子どもと向き合えるようにして欲しい。

・多様な育て方が出来るように、情報が手に入りやすいアプリ等を活用して欲しい。（自分から情報収集をするには難しい場合があるので）

・親同士が愚痴を言い合える場が欲しい。（ママさんフリータイム広場等）

〇グループＥの内容

・一時預かりの充実により、母親に余裕を与える。

・〇〇広場や園の開放等、子育て世代の支援の拡充。

・子ども達も親を大切に出来るような教育が充実出来れば、もっと良い大町になり、流入者が増えると思う。

・資格を持っている人や、保育士の確保

４　助言者のまとめ

各グループからのまとめを聞いてみると、どのグループからもすごく良いアイデアで、今すぐに実践して欲しいと思いました。大町市が他市町村から見て羨ましいなと思う市になって欲しいと思います。